

論文要旨

学位論文題目：「ネットを用いた仲間内攻撃行動の予防要因に関する研究」

氏名：山岡 あゆち

近年、インターネット（以下ネット）の普及に伴い、児童・生徒間でのネットを用いて嫌がらせを行うなどのいわゆる「ネットいじめ」といわれるネットを用いた仲間内の攻撃行動（以下ネット攻撃）が問題になっている。本論文では、児童・生徒の要因、家庭教育という外的要因、学校教育という外的要因という大きな3つの観点から、このネット攻撃の予防要因について、11個の実証的な研究を行った。実態調査以外は、2波もしくは3波のパネル調査の手法を用いて因果関係の推定を行った。

本論文は、5章から構成され、第1章では、ネット攻撃に関する問題背景と、先行研究についてレビューを行った。

第2章では、児童・生徒の個人内要因について扱い、小学生から高校生を対象とする研究1から研究3を実施した。研究1では、ネット攻撃の背景にある、児童・生徒のネット利用やフィルタリングなどの安全なネット利用のための取組みの実態について明らかにした。研究2では、ネット攻撃の生起要因と予防要因の検討を行った。メディアを使いこなすスキルである「ICTスキル」がネット攻撃を増加させる生起要因であることと、ネット上の対人行動における善悪判断である「ネチケット」という要因がネット攻撃を抑制する予防要因であることを示唆した。また、研究2ではネットを用いない仲間内の攻撃行動である学校での攻撃についても併せて検討したところ、ネチケットが抑制的な効果を持った。研究3では、ICTスキルがネット攻撃を増加させる影響についてネチケットが抑制することを示唆した。

第3章では、家庭教育という要因について扱い、研究4から研究7を実施した。研究4では、中学生と高校生の保護者による家庭での情報教育の実態について明らかにした。研究5では、児童・生徒に尋ねた家庭におけるネット利用に関するルールや親子間の会話、フィルタリングの設定が児童・生徒のネット攻撃を抑制するかどうかを検討し、フィルタリングが一部でネット攻撃を抑制することを示唆した。研究6では、研究2で扱ったICTスキルがネット攻撃を増加させる影響に対して、家庭におけるネット利用に関するルールや会話、フィルタリングの設定が抑制するかどうかを検討し、全体として抑制的な効果が示唆された。研究7では、ネチケットがネット攻撃を抑制する影響に対して、家庭におけるネット利用に関するルールや会話、フィルタリングの設定が調整するかどうかについて検討したが、ネチケットが低い場合に、これらの家庭の要因が抑制的な効果を持つことはなかった。

第4章では、学校教育という要因について扱い、研究8から研究11を実施した。研究8では、情報教員を対象とする実態調査を行い、学校全体のネット環境や情報教育の取り組み、情報教員による情報教育の実態について明らかにした。研究9では、学級担任を対象とする実態調査によって、学級における学級担任による情報教育や生徒指導方針の実態を明らかにした。研究10では、研究8で扱った情報教員による情報教育が、ネット攻撃を抑制するか、またICTスキルやネチケットに効果を持つかどうかを学校単位でその影響を検討したが、ネット攻撃に対する抑制的な効果やICTスキルやネチケットを向

上させるような結果は得られなかった。研究 11 では、研究 9 で扱った学級担任による情報教育と生徒指導方針がその学級のネット攻撃および学校での攻撃を抑制するかどうかについて学級単位で検討した。その結果、学級担任による情報教育がネット攻撃を抑制したり、ICT スキルやネチケットを向上させたりするような効果は見られなかったが、学級担任による生徒指導方針がネット攻撃及び学校での攻撃を抑制する効果が見られた。特に、生徒指導の中でも、児童・生徒の人間関係づくりを見守る指導の効果が見られた。

第 5 章では、第 2 章から第 4 章の研究の結果について、総合的な議論を行った後、子どもの発達段階に留意しながらネット攻撃の予防策について述べた。小学生については、ネット攻撃の生起率が低く因果関係の検討ができなかったが、保護者が子どものネット利用に関してモニタリングを行うことやネチケットを伸ばすことが必要であることが示唆された。中学生については、メディア利用の増加に伴って ICT スキルがネット攻撃を増加させる影響が最も強く見られたと同時に、ネチケットの抑制効果も見られ、ネチケットが重要な要因であることが示された。また、親子間の会話やネット利用に関するルールなど、家庭教育については、逆にネット攻撃を増加させる影響も見られたが、ICT スキルがネット攻撃を増加させる影響については抑制するなどの効果も見られ、第二次反抗期であることに留意した家庭教育が望まれる。高校生においては、ネチケットや ICT スキルといった個人の要因よりもフィルタリングやネット利用に関するルールなど家庭教育が抑制的な効果を持った。本研究から見出された有効な要因は、フィルタリング以外は従来から重視されてきたようなモラルの育成、親子間の会話、教員により人間関係の見守りといった要因であり、従来からの対策にネット特有の特徴を踏まえた予防が必要であることが示唆された。